



TITLE:

田島博士逝く

AUTHOR(S):

CITATION:

田島博士逝く. 經濟論叢 1934, 39(2): 269-271

ISSUE DATE:

1934-08-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130485>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論濟經

號 二 第

卷九十三第

行發日一月八年九和昭

哀 辭
故田島博士近影及署名
故田島博士原稿及京大弓道々場における博士

論 叢

骨牌税に就きて……………法學博士 神戸正雄
供給曲線の性質……………文學博士 高田保馬

時 論

輸出統制の諸問題……………經濟學博士 谷口吉彦

研 究

貨幣的景氣論史……………經濟學士 柴田敬
金物價と貨幣價值安定……………經濟學士 松岡孝兒
アダム・スミスの廉價即豊富論……………經濟學士 白杉庄一郎

記 事

田島博士逝く

故田島博士年譜及著書論文目錄
追憶文

織田 萬	神戸 正雄	山本 美越乃	財部 靜治
河田 嗣郎	本庄 榮治郎	小島 昌太郎	大國 壽吉
汐見 三郎	黒 正 巖	田 島 順	石川 興二
谷口 吉彦			

附 録

新着外國經濟雜誌主要論題

記事

田島博士逝く

田島錦治先生は六月二十七日立命館大學で午後一時から三時まで講義をせられたが、その日の夕食後突然發病せられ、翌二十八日午前四時半遂に逝去せられた。病名は腦溢血である。享年六十八。あまりの突然のことであるから我々訃報を聞いた者も容易に信じられず、驚愕のうちに茫然自失せる有様であつた。

先生は帝國學士院會員として、我國屈指の經濟學者であることはいふ迄もない。京都帝國大學の方は先年停年制によつて退官せられ、其後は京都帝國大學名譽教授となられたが、經濟學部講師として本年三月まで、東洋經濟學史を講ぜられた。退官と同時に立命館大學々長として盡瘁せられたが、昨年十一月に佐々木惣一博士が學長となられ、先生は名譽學長として相變らず講義をされてゐた。そして最後の日まで講義をされたことは學者として本懐のことであつたであらう。先生の御經歷については別項に記載したから、茲には詳しく述べない。たゞ一言述べておきたいことは、先生は東京帝國大

學法科大學卒業後の全生涯を、わが京都帝國大學のために捧げられ、わが大學の發展の爲めに盡されたのであるといつて差支ないことである。

田島家においては七月一日午前十一時 畏くも勅使御差遣の榮に浴し、幣帛並に祭資を賜うた。誠に畏れ多いことである。同日午後三時出棺、四時花山火葬場にて茶毗に附し、二日には三條通東山線西入要法寺にて午後一時より莊嚴なる葬儀が行はれ、帝國學士院、京都帝國大學經濟學部長、同法學部長、大日本武德會長、立命館大學總長、大阪商科大學長、門下生代表、京都帝國大學經濟學部學生代表、日本赤十字社長、日本少年救護協會、京都帝國大學經濟學會、京都帝國大學法學會、京都帝國大學學友會弓道部、立命館大學校友會、右武會本部、右武會副會長、全日本學生劍道聯盟、日本學生弓道聯盟關西支部、京都學生劍道聯盟、大日本武德會弓道範教士會、日本ヨット協會副會長、東部ヨット協會長、愛知縣以西二府十六縣朝鮮總督府感化院長等より弔詞が捧げられ、日本學術振興會長齋藤實、東京帝國大學經濟學部長土方成美、日本漕艇協會、日本學生弓道聯盟會長小山松吉、右武會各地支部、小野塚喜平治、荒木寅三郎、田中館愛橘、小金井良精、桑木嚴翼、山田三良、高岡熊雄、中川小十郎、阪谷芳郎、小川平吉、菱刈隆、鈴木莊六、住友吉左衛門、馬場鎮一、堀啓

次郎、上野精一其他諸團體及個人よりの弔文並に弔電六四三通に達した。午後三時より五時まで一般告別式を行ふ。會葬者約一千名に及び近來の盛儀であつた。遺骨は十一日遺族に守られて東京に向ひ、中野區蓮華寺なる田島家の墓地に葬られた。諡して昭徳院赤城日教大居士といふ。

左にわが經濟學部長神戸博士及門下生代表山本博士の弔詞を録する。

弔 辭

時維昭和九年六月二十八日

我國經濟學界ノ元勳

赤城田島錦治先生溘焉トシテ逝ク 嗚呼哀哉

先生資性俊敏シカモ孳々トシテ究明倦ムコトヲ知ラス 長ク京大ニ於テ經濟原論ヲ講シ又社會政策ニ及フ 先生力東大ノ課程ヲ卒ヘテ大學院ニ進ムヤ 社會主義ヲ選ンテ其專攻トス 遠キヲ見ルノ聰明敬服ニ堪ヘス 先生壯時ニハ可ナリニ進歩的ナル思想ヲ懷キシモ 年ヲ經ルニ隨ヒ益々圓熟シタル思想ヲ抱持シ 特ニ經濟ト道德トノ調和ヲ説キ反社會主義ノ立場ニ立チテ 老ヲ忘レテ敢然トシテ論戰ニ參加ス 其功業ノ雄大ナル 恰モ萬人ヲシテ仰視セシムル白雪皓々タル秀峰ノ觀アリ 先生ノ學績ハ爛漫タル櫻ノ類ニアラスシテ 馥郁トシテ香り高キ梅ノ如キモノニ屬ス

而モ此香氣ハ瞬時ニ霧散セスシテ永代不滅ナリ 先生ノ肉體ハ今ヤ亡シトイヘトモ 英靈ハ遺書ニヨリテ永遠ニ生ク 先生ハ京大ノ開設スルヤ招カレテ最初ノ經濟學教授トナリ 經濟學部ノ獨立スルヤ推サレテ一次ノ學部長トナル 我學部ノ今日アル先生ノ力ニ負フコト最多シ 昭和二年停年制ノ適用ヲ受ケテ退官スルヤ 立命館大學長ニ聘セラレテ其發展ニ盡瘁シ 同大學ノ特色トシテ世ニ傳フルモノモ亦先生ノ德ニ負フコト少カラス 斯クテ先生ハ獨リ學者トシテ拔群ノ功績ヲ樹テタルノミナラス 教育行政家トシテモ卓越シタル才幹ヲ示セリ 晩年先生カ帝國學士院會員 京都帝國大學名譽教授 立命館大學名譽學長等ノ名譽ヲ併セ荷ヒタル洵ニ故ナキニアラス 先生ハ溫情ニ富ミ後進ヲ掖誘スルコト最懇切ヲ極ム 門人ハ朝野ニ充チ 就中學界ノ要部ヲ占ム 特ニ關西方面ニ於テ經濟學ヲ學ヒタルモノニシテ直接間接先生ノ教ヲ受ケサルハ稀ナリ 先生ハ實ニ關西經濟學界ノ長老トシテ學徒崇敬ノ中心タリ 然ルニ今ヤ亡シ 痛恨何ンソ堪ヘン 謹ミテ弔詞ヲ述ヘテ先生ノ靈ヲ慰ム 尙クハ饗ケヨ

昭和九年七月二日

京都帝國大學經濟學部長

神戸 正雄

弔 辭

昭和九年六月二十八日赤城田島錦治先生溘焉易簣セラル
先生居常矍鑠 曾テ二豎ノ患ヲ聞カス 肄業ノ徒永ク宗師
ノ靈訓ヲ冀テ息マサリシニ 今ヤ幽明處ヲ異ニシ再ヒ其溫
容ニ接スルノ機ナシ 嗚呼悲哉
先生夙ニ彥碩ノ資ヲ以テ經世濟民ノ學ニ志シ 東西古今ノ
典籍ヲ涉獵シテ研精際涯ヲ知ラス 其講帷ニ臨ムヤ蘊蓄ヲ
傾ケテ諸生ヲ啓發シ 諄誨誘掖至ラサルナシ 其高風ハ以
テ萬世ニ傳フヘク 其德化ハ洽ク後昆ニ垂ル、ニ足ル 既
ニ華甲ノ壽ヲ過クルモ猶研覈一日モ之ヲ忽ニセス 晚年殊
ニ經世濟民ノ本義ト東洋道德ノ關係ヲ明カニシテ 先人未
到ノ境地ヲ拓キ 以テ後學ニ嚮フヘキ針路ヲ示サル 東西
文化ノ羣源融合ヲ要スルコト彌々切ナラントスル時ニ當リ
天先師ニ壽ヲ假サス 遽ニ其計ニ接シ悲戚窮リナシ 茲ニ
門下一同ニ代リ聊カ卑懷ヲ聯ネテ謹ミテ先師ノ靈ヲ弔ス

昭和九年七月二日

門下生代表

山本美越乃